

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成22年度病害虫発生予察情報について

このことについて、下記のとおり発表しましたので、送付します。

病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 イチゴ
- 2 病害虫名 うどんこ病
- 3 予報内容
 - (1) 発生地域 県本土
 - (2) 発生量 多
- 4 情報の根拠

- (1) 6月中旬の巡回調査での発生ほ場率は94%（平成39%）で、多発した前年、前々年の同時期よりも高く（図1）、発生程度の高いほ場が多く認められた（表1）。
- (2) 育苗ほでの発生が多いと、本ほでの発生も多くなる傾向がある（図2）。

地域名	調査ほ場数	発病程度別ほ場数				計	調査地点
		甚	多	中	少		
日置	5	1	2	1	1	5	日置市伊集院町
川薩	5	1	1	2	1	5	さつま町湯田
曾於	7		3	1	2	6	志布志市有明町
計	17	2	6	4	4	16(94%)	

注) () は発生ほ場率

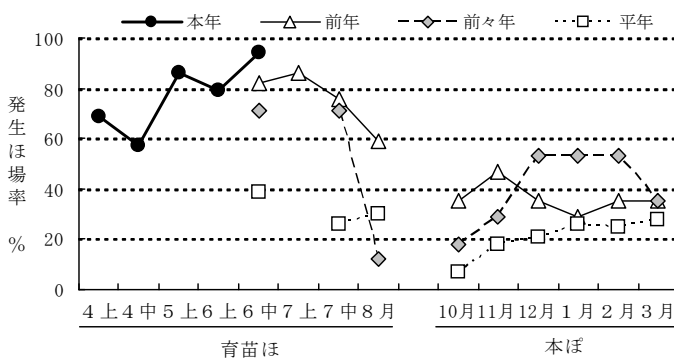


図1 うどんこ病の発生ほ場率（イチゴ）

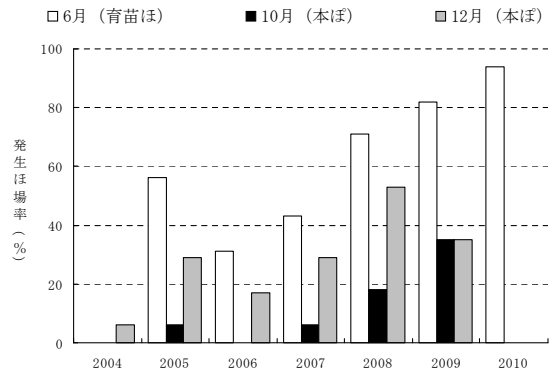


図2 本ほと育苗ほにおけるうどんこ病の発生ほ場率の関係

5 防除上注意すべき事項

- (1) 7～8月の高温期は病斑が消滅するが、潜在感染株は本ほで発病するので、定期的な予防散布を徹底する。
- (2) 薬剤は、葉裏や下位葉に十分かかるよう散布する。展着剤を加用する場合は、薬剤との組み合わせにより薬害がでる恐れがあるので注意する。
- (3) 薬剤によっては感受性が低下している可能性があるため、散布後は防除効果を確認する。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる薬剤とのローテーション散布を行う。
- (5) 罹病葉や不要な古葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出して処分する。
- (6) 雨よけハウスでは発生が多くなる傾向にあるので注意する。